

3



## こいのぼりはどうして5月がつにあげるの

### 5月5日は端午がつ か たんご せつくの節句

5月5日はこどもの日がつ か ひで、祝日しゆくじつですね。じつはこの日は、端午たんご せつくの節句おとこ こといって、男の子のお祭りの日まつ ひでもあるのです。端午たんご せつくの節句とは、男の子の成長せいちようを願ねがって行おこなわれる祭りまつりで、よろい・かぶとや五月人形ごがつにぎよう、こいのぼりおとこ こをかざって、男の子おとこ こがたくましく育そだつことを祝いわい、これからの成長せいちようを願ねがうものです。

中国ちゅうごくの言い伝えい つたえに、「黄河こうがの上流じょうりゅうにある龍門りゅうもんの急流きゅうりゅうを登のぼりきったこいは龍りゅうと化かす」とあります。それほどこいの泳およぎは勢いきおいがいいということです。このことから、こいは立身りっしん出世しゅっせ（世よの中なかの高位たかについて、立派ちいな身分りっぱ みぶんになること）のシンボルとされ、こいのぼりたを立てるようになったのです。

こいのぼりたを立てるようになったのは、江戸時代えどじだいの終おわりごろからで、明治時代めいじじだいになると、こいのぼりとふき流ながしをいっしょたに立てるようになりました。

### 菖蒲しょうぶ せつくの節句

端午たんご せつくの節句は、菖蒲しょうぶ せつくの節句ともいいます。菖蒲しょうぶは、病びょうき気さいなんや災しょうぶ難ぶつをふりはらう植物しよくぶつとされ、家のいえのしたにさして、魔まよけとしたりしました。菖蒲しょうぶの発音はつおんが「勝負しょうぶ」「尚武しょうぶ（武術ぶじゆつや勇気ゆうきを重おもんじること）」に通つうじることから、男性だんせいの強つよさと勇いさましさのシンボルでもあったのです。このようないわれから、端午たんご せつくの節句しょうぶに菖蒲湯しょうぶに入るようになったのです。おふるに菖蒲しょうぶをうかべ、悪い病わる気びょうきや災さいなん難あらを洗ながい流げんきし、元こ気そだな子どもに育そだてといのったのです。

（監修・青木 国夫）

